キャラクター名
藍成 博覇(あいぜい ばくは)/アイゼイア・マクファーソン

プレイヤー名

シンドローム	サラマンダー モルフェウス	ワークス	UGN支部長B	カヴァー	アンティークショップの店長
オプショナル		年齢	39	性別	男
覚醒	死	衝動	嫌悪	初期侵食率	33 %
出自	名家の生まれ	経験	汚れ仕事	邂逅	D:亜純血

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	3	0	0			3
感覚	2	1	0			3
精神	1	0	0			1
社会	2	0	0			2

HP	27
行動値	7
(非装備時)	7
戦闘移動	12
全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	4		ＲＣ			交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
火薬(ハンドレッドガンズ)	射撃	3r+4		6		
火薬(100%)	射撃	3r+4		7		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
コネ:UGN幹部	
コネ:情報屋	
思い出の1品	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
亜純血	P	N		
ダニエル・ネイサン	P 執着	N 悔悟		
妻子	P 懐旧	N 悔悟		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 8	残り財産P： 4

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
コンセ:サラマンダー	2	2						
効果： C値-lv								
ハンドレッドガンズ	2	3	マイナー	至近	自身	自動		
効果： 攻撃力［lv+4]の武器作成								
炎の刃	5	2	メジャー	武器	-	対決		
効果： 攻撃力+[lv×2]								
結合粉砕	1	4	メジャー	-	-	対決	ピュア	
効果： 装甲無視。判定ダイス+lv個								
ギガンティックモード	2	3	メジャー	武器	範囲:選択)	対決		
効果： 対象を範囲(選択)に変更。シナリオlv回。								
カスタマイズ	3	2	メジャー	武器	-	対決		
効果： 判定ダイス+lv個								
万能器具	★							
効果：								
炎の理	★							
効果：								
不燃体	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

「あー、硬っ苦しい挨拶は苦手だ。私の名前は藍成博覇。気軽にアイゼイアとでも呼んでほしい」
「ええい面倒くさい! 全て爆破しよう!」
「……泣いても嘆いても、私の娘は戻らない。仕方の無いことだが……これが仲間をこの手で屠ってきた、私への罰なのだろうか」

UGN支部長をつとめている男。モルフェウスの能力で火薬を精製し、それにサラマンダーの炎によって着火することで敵を爆発させる戦法を得意としている。曰く、爆発の炎ほど美しいものはない。
異様なほど炎に魅せられた人間であり、面倒事があるとすぐに爆破しようとする。
それは彼の過去に起因している。

彼は元々欧州の生まれで、名家であるマクファーソン家に生まれた。そしてアイゼイアと名づけられた。しかし彼は、当主の妻とその愛人の間に生まれた不義の子だった。本来ならどこか別の場所へと追いやられる予定だったが、母親の懇願により家にとどめ置かれることとなった。しかし、母親以外の他の親族や屋敷の使用人たちからは邪険に扱われたり、父親からは最初からいないものとして扱われたり、近所からは妾の子だと白い目でみられたり、生まれつきの白髪のせいでいじめられたりと不遇な幼少期をすごした。
母親は当主の温情により結婚は破棄されなかった。最初こそ彼を愛してはいたが、次第に「不義を働いた妻」として周囲から責められるうちに精神に異常をきたしていき、そしてある時から彼を虐待するようになった。唯一の見方だった母親に裏切られた彼は、それ以来自身の一族を深く恨むようになった。ならばどうして自分を産み落としたのだと、母親を憎んだ。
しかし、そんな生活の中でも楽しいものはあった。それは、親戚の幼馴染との交流だった。その幼馴染も、彼と似たような境遇で、お互いに傷を舐めあっていたというのが正しい。
そんな彼に転機が訪れたのは、彼が15歳の時で、屋敷の書斎でたまたま、火や火薬に関する本を読んだことだった。それを読んだ彼は、とある計画を思案した。
それは、一族をすべからく殺すためのものだった。
その計画の実行のために、彼は、爆発物についての勉強を始めた。自らの手で爆弾を作成し、威力をあげられるよう改造を重ねた。
そして、18歳の誕生日。奇しくも、その日は一族全員が屋敷に集まる親族会議の日だった。彼は、予め屋敷の至る所に自作の爆弾を仕掛け、全員が集合する晩餐